



国家汉办/孔子学院总部
Hanban/Confucius Institute Headquarters

北陆大学出版会
南京大学出版社

庄子

《中国思想家评传》简明读本
日中文对照版

主编 周宪 程爱民

包兆会 著

笠原祥士郎 译



YZLI0890172706



庄子

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

主编 周宪 程爱民

包兆会 著

笠原祥士郎 译



YZLI0890172706

北陆大学出版会
南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

庄子:日汉对照/包兆会著;(日)笠原祥士郎译.—南京:南京大学出版社,2012.11

(中国思想家评传丛书简明读本/周宪,程爱民主编)
ISBN 978-7-305-10779-5

I. ①庄… II. ①包…②笠… III. ①庄周(约前369~前286)—评传—日、汉 IV. ①B223.5

中国版本图书馆CIP数据核字(2012)第270062号

出版发行 南京大学出版社
社 址 南京市汉口路22号 邮 编 210093
网 址 <http://www.NjupCo.com>
出 版 人 左 健

丛 书 名 《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

书 名 庄 子

著 者 包兆会

译 者 笠原祥士郎

责任编辑 田 雁 编辑热线 025-83596027

照 排 南京紫藤制版印务中心

印 刷 南京人民印刷厂

开 本 850×1168 1/32 印张 7.5 字数 179 千

版 次 2012年11月第1版 2012年11月第1次印刷

ISBN 978-7-305-10779-5

定 价 22.00 元

发行热线 025-83594756

电子邮箱 Press@NjupCo.com

Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有,侵权必究

* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,请与所购图书销售部门联系调换

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

编辑委员会

主 任 许 琳 张异宾
顾 问 北元喜朗
副 主 任 马箭飞 周 宪 周 航
编辑委员 马箭飞 王明生 王 涵 左 健 田 雁
许 琳 吕浩雪 张异宾 村田和弘 周 宪
周 航 周 群 金鑫荣 泉洋成 胡 豪
夏维中 徐兴无 笠原祥士郎 蒋广学 程爱民
主 编 周 宪 程爱民

本 读 本

由南京大学出版社与北陆大学出版会共同出版。

日文版的版权属北陆大学出版会所有。

中日文版的版权属南京大学出版社所有。

序

古代中国は人類の文明にとっても精神にとっても、ゆりかごのようなものです。

ドイツ人哲学者カール・ヤスパース(Karl Jaspers, 1883年～1969年)の見解によれば、エジプト、メソポタミア、インド、中国の四大文明の発祥の後、紀元前800年から紀元前200年の間、おもに紀元前500年を中心に、世界中に連続した体系的な文明がふたたび生まれたということです。この時代のことを彼は枢軸時代(Axial Age)と呼んでいます。これらの文明には大思想家たちが現れ、彼らは人類や世界の根源的諸問題について思索し、^{げだつ}解脱や超越の目標と方法について示唆したのです。たとえば、中国の孔子、老子、墨子、荘子などの思想家たちや、インドのウパニシャド(奥義書)や釈迦、ギリシャの詩人ホメロス、悲劇詩人のトゥキュディデイス、哲学者のヘラクレイトス、プラトン、アリストテレス、さらにパレスチナの思想家たちが、中国、インドおよび西方諸国の、それぞれ相互に交流のない地域において、ほとんど同時に出現したのです。そして、彼ら大思想家たちが創り上げた思想的様式および世界的な宗教は、現代もなお人類に精神のよりどころとされており、彼らは今もなお我々の生活とともにあるのです。

さて、中国五千年の文明の歴史を座標として、ヤスパースの視点を重ね合わせると、紀元前551年から紀元前479年の間に生きた孔子は、まさに中国文明がこの枢軸時代にさしかかったころの代表的人物であり、彼はこの五千年の中間点あるいは折り返し地点にあったと言えます。



黄河文明の発祥から孔子の時代に至るまでと、孔子の時代から我々の現代に至るまでは、ともにそれぞれ2500年前後を数えることができます。孔子が現われる前には、中国に思想というものはあっても思想家は存在しませんでした。孔子以降、中国にも古代思想家たちが次々と現れて、彼らは中華民族だけでなく全人類にとっても価値のある豊かな思想的遺産を残したのです。孔子が唱えた「故きを温めて新しきを知る」^①とか「信じて古えを好む」^②といった思想上の原則は、中国の伝統を重んじるという姿勢に影響を及ぼしました。すなわち、古人の思想的遺産を尊重し、立ち止まることなく古人の思想を理解しそれを発展させ続け、その中から思考や宇宙・社会・人生問題に対応するためのすべを人々は獲得したのです。このことこそが、我々が今この『中国思想家評伝』簡明読本版(日本語版『中国著名歴史人物伝集』)を世に問う理由でもあります。

中国の悠久なる古代思想史を見渡すと、思想家たちが貢献した成果には深い造詣と高い価値があり、それは世界思想史上において独自の旗印を掲げるものとなりました。それら数々の思想は現代の中国あるいは世界にとっても、日々新しく生まれ、生命力にあふれたものと言えます。百家争鳴の先秦諸子、スケールの大きな含蓄のある漢や唐の経学^③、親しみやすく幽玄な魏晋の玄学^④や、知性を尽くした宋や明の理学^⑤など、

-
- ① 『論語』「為政」。(訳者注)
 - ② 『論語』「術而」。(訳者注)
 - ③ 儒教古典の解釈学。(訳者注)
 - ④ 『老子』『莊子』『易』を尊崇する学風。(訳者注)
 - ⑤ 人間の道徳性や天と人を貫くことわり(理)を追求する新儒学。(訳者注)

どれも思想学術のあでやかな花であり、仏教の色即是空の悟りや道教の神仙修養は宗教的信仰の沃土よくとと言えましょう。そのほかにも、経世済民^①の政治・経済思想や自然の理をも乗り越えようとする巧みの科学技術や工芸の道、風雅の真髓に迫り、彩りの落ちることのない文学芸術……これらすべてにわたって豊かな思想を醸かもし出しています。中国の思想はそれぞれが時には水と火の関係のように相容れることなく激しく論争し合ったかと思うと、さまざまな思想が合致し合い、道は異なれども同じところに行き着いたりしましたし、また、いろいろな学派が生まれ林立したかと思うと、それらが互いに啓発し合い、奥義を究めていったりしました。儒、仏、道の三教も論争のなかから融合し、さまざまな思想がともに行われて、対立しませんでした。このように、中国思想の成立は豊富で多彩なものであり、天人合一^②、知行合一^③、剛健中和^④などの精神的伝統を貫きつつ、継承や解釈をしていきながら変遷し、一代ごとに研ぎ澄まされ、総合と新奇の特色を表し続けてきたのです。

中国古代思想史には、思想家とか思索者とか、哲学者などといった言い方や概念はなく、聖人、賢人、哲人、智者、諸子、大師などの呼称があるだけです。とはいえ、こうした呼称こそがまさに中国古代思想家の特徴を概括していると言えます。彼らの社会的身分は、たいていが教師か学者でしたが、それは彼らの思想が道徳と智慧ちゑを追求したものだっ

① 世を治め、民の苦しみを救うこと。(訳者注)

② 人の行為は天と連動していることを強調する考え方。(訳者注)

③ 知って行わないのは、未だ知らないことと同じであることを主張した実践重視の教え。(訳者注)

④ 強く健やかでありつつ、異なる性質を持った者同士が交わること。(訳者注)

からです。もちろん、より広い範囲から見れば、中国古代思想は、政治、軍事、経済、法律、工芸、科学技術、文学、芸術、宗教など多くの文明的領域において、大きな貢献をしましたが、創始者や集大成者など傑出した人物の言論や著作、あるいは弟子たちによってまとめられた言行録などこそが中国古代思想の重要な内容なのです。中国人は、孔子以前にすでに、「功を立て」、「徳を立て」、「言を立て」るの「三不朽」といった、超越を追求するための道しるべを作り上げましたが、これら人類社会のためにうち立てた大きな功績、個人的道徳修行の完遂と思想、智慧、学説などのすべてはまさに不朽の歴史的遺産とも言えます。こうした意味から言えば、中国思想家たちの手による成果は、我々現代人が慣れ親しんだ職業思想家、哲学者あるいは宗教的先知をも大きく超えていると言えましょう。そして、我々が『中国思想家評伝』簡明読本を執筆するにあたって、こうした基準に基づいて思想家たちを選びました。

さて、南京大学名誉学長の故きょう あめい匡 亜明教授の監修を仰いで、南京大学出版社より出版された『中国思想家評伝叢書』は、中国 20 世紀以来、最も広大な中国思想家研究の成果と言えましょう。今回、簡明読本叢書の編集出版にあたって、まずこの200 冊にもおよぶ『中国思想家評伝叢書』の労苦に深い敬意を表すものであります。この巨人の双肩に依りつつ、本簡明読本においても、学術的基礎を保持しながら、なおかつそこにいくらかの新鮮味を加えたつもりです。その新鮮味とは内容は深いままに表現は分かりやすくし、より広範な読者をも惹きつけるものにしたことであります。思索と読みやすい表現、生き生きとした物語と智慧……中国文化の「拡大」と文化のグローバル化を提唱する今日、この読本による古代中国思想家たちの紹介を通して、中国思想に関心を

持たれる読者のみなさんが、我々と古人たちとがともに直面する一つ一つの問題を掲げながら、古代の中国思想家たちと胸襟を開いた対話をされることを期してやみません。

編集委員会

2008年9月

目次(日文版)

序	1
前 言	1
第一章 莊子の時代	4
第二章 少年時代(約前 368—前 350)	16
第三章 青年時代(約前 350—前 338)	22
第四章 中年早期(約 BC338—BC329)	43
第五章 中年晩期(約 BC329—BC319)	61
第六章 晩年(約 BC319—BC286)	71
第七章 莊子の文学	82
第八章 莊子の自然	105
第九章 莊子の生活	116
おわりに	131
参考文献	134
訳者あとがき	135

目录(中文版)

序	139
前言	143
一、庄子时代	145
二、青少年时期	153
三、青年时期	157
四、中年早期	170
五、中年晚期	181
六、晚年	188
七、文学庄子	195
八、自然庄子	208
九、生活庄子	215
余论	224
延伸阅读书目	226

前 言

春秋戦国時代、老子・孔子、孟子・墨子、莊子・荀子・韓非子などの先秦諸子が誕生しました。この時代はたくさんの星がきらめく時代でした。なかでも莊子はとりわけ輝いていて、群を抜いていました。もし中国の文化史に彼の存在がなければ、文化史は多くのことが書きとめられず、彼がいなければ、中国芸術史はおもしろみのない、味気ののないもの、中国思想史は斬新さも特徴もなくなっていたことでしょう。

莊子(前 368—前 286)、その名は周、宋国の蒙(今の河南省商丘の東北)の人です。同じ時代には山東省鄒^{すう}の孟子(約前 372—前 289)や、古代ギリシャのアリストテレス(Aristotle、前 384—前 322)らがいました。

先秦諸子たちのなかでも、莊子の一生はとりわけ貧しく平凡なものでした。彼は濮水^{ぼくすい}に釣り糸を垂らし、水辺に謡い、あばら家に住み、妻をめとり、子をもうけ、わら草履を編んで暮らしていました。彼が求めたものは「寧ろ汚瀆^{むし おとく}の中に遊戯して自ら快くせん、国を有つ者に羈^{たも}せらるること無からん」^①といった生活であり、何かを求めることも、そのために苦悩することはありません。とりわけ、世俗の誰もが汲々として求め続ける富貴栄達への道や功名への企てなどに対して、彼はまったく関心を示さず、むしろそれを遠ざけ、軽蔑していました。彼の生涯は主に司馬遷の「史記」「老子韓非列伝」と「莊子」に載っています。

戦国時代の同じ平民思想家として、莊子の思想傾向や社会出身層に

① 「史記」「老莊申韓列伝」(訳者注)



近いものに墨子(前480—前420)があげられます。墨子もまた平民出身で、手工業に熟達した小手工業者でした。墨子は「鄙人^{ひじん}」を自称し、「布衣^{ほい}の士」とか「賤人」などといわれていました。彼自身、労働者としての悲惨な生活体験があるので、「富が貧^{あなど}を侮り、貴が賤^{おご}に傲」ることに強く反対し、「兼ねて相愛し、こもごも相利す」(墨子「兼愛篇」)ることを主張し、さらに「飢うる者が食を得、寒える者が衣を得、^{はたら}く者が息を得、乱るる者が治を得る」ようにすべきだと考えます。ただ墨子が莊子と違うのは、墨子は自分の主張を広めるために、広く弟子を受け入れ、腹心の弟子だけでも数百人にも達し、すでにその当時すさまじい勢力となっていた墨家学派を形成し、同じように当時の著名な学派であった儒家学派と拮抗していたという点です。墨子は公輸般^{こうゆはん}と戦いについて論じ、楚国による宋国への侵略戦争を阻止するのに成功しました。また、墨子は宋国の大夫となり、長い期間、齊・鄭・衛・楚・越などの諸侯の間を回り、自らの政治主張を宣伝してきました。

莊子の生涯は墨子のようにセンセーショナルなものではなく、一時期漆畑を管理する下級役人を勤めましたが、ほとんどの時間はしずかに独り言を言っているだけでした。莊子は弟子も少なく、「莊子」山木篇には莊子が山中を歩く時に弟子がつき従うという記載があり、「莊子」列御寇篇にも莊子が臨終を迎えると、弟子たちが手厚く葬ろうとしたということが載っていますが、莊子の弟子の中ではっきりとした名が記載されているのはただ一人一蘭且^{うんしよ}だけです。

春秋戦国時代において、莊子は儒家の孔子や孟子のように、また墨家の墨子や、法家の韓非子のように国家を安定させるための政治的方略を提出することに熱中するわけでもなく、社会の秩序を安定させ、天下

の庶民を救うための社会処方箋を書いたわけでもありませんし、また彼らのようにあちこち遊説して、自分の政治的理想を押し広めたわけでもありません。たとえば、荘子と同時期の孟子は、自分が理想としていた「仁政」を押し広めるために、梁の恵王(前 369—前 319 在位)や斉の宣王(前 319—前 301 在位)、さらには荘子がかつて住んでいた国の君主、宋君の偃(前 338—前 298、前 288—前 286 在位)などと直接の交流をし、また宋の国に行って政治改革を行ったりもしました。他方、荘子は歴史的な大事件についても関心がなく、その書に宮廷の政変や、戦争・政治・外交など、戦国時期に発生した驚天動地の、大自然を根本から改めるような大事件などもまったく記載されていません。あちこちで生ずる戦争と殺戮が人生に無常と苦難をもたらし続ける、この不条理で不穏な世の中であって、一個の人間がどのように身を寄せ、命をつなぎ、限られた生存空間の中で快樂と自由に生きていったらよいかということに関心を持っていました。荘子のこたえは「逍遙遊」です。

これが荘子の姿です。彼の一生は味わい深いものです。

第一章 莊子の時代

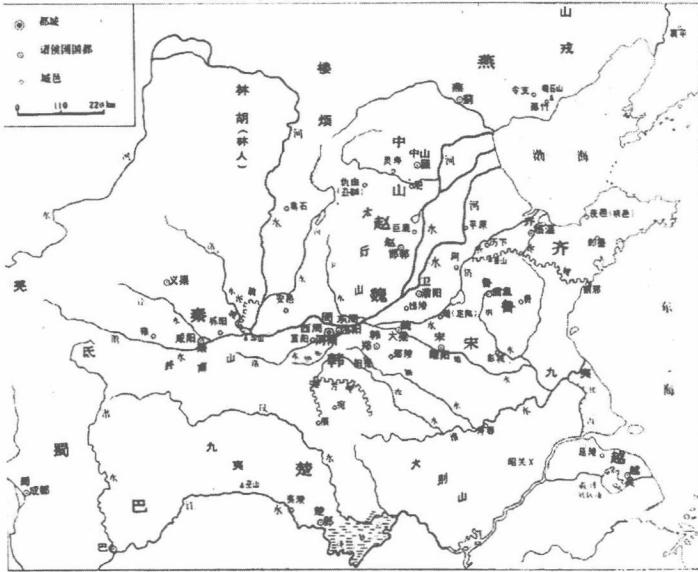
莊子の時代は戦争と殺戮の時代でした。

戦国時代、財産と国土を守るため、また天下に覇たるために、国家間の戦争が頻発しました。戦争で敵に打ち勝つには経済力と軍事力を必要とし、各国はさまざまな改革政策を実施しました。

魏国では文侯(前 445—前 396 在位)が李悝^りを任用して変法や政治改革を行い、農業と軍事を奨励し、水利工事を行い、経済を発展させ、最初に強国になりました。紀元前 356 年、秦の孝公は衛鞅^{えいおう}①を用いて変法を行い、秦国も強国となりました。同じ年、斉国も政治改革を行い、強国になりました。楚国は悼王^{とう}(前 401—前 381 在位)の時に呉起を任用して変法を行い、大きな成果を得ることはなかったものの、従来の強国の地位を維持しました。燕国も戦争を繰り返して、しだいに頭角をあらわし始めました。ここに、七強の併存が形成されるようになりました。

より広い国土とより多くの人口や税収を奪取しようとして、国家間の兼併戦争はますます激しく、規模はさらに大きくなっていきました。紀元前 341 年、魏と斉の間に起こった馬陵の戦いでは、魏国は「十万の軍」を動員しました。紀元前 293 年、秦国の大將の白起は華陽にて魏の軍隊を大いに打ち破り、15 万もの人を斬首^{ざんしゅ}しています。戦国時代、各国とも郡県徴兵制度を広く実行し、戦争が起ると適齢期の農民すべてが強制的に軍隊に召集されたために、規模の大きな戦いでは何万、何十

① 商鞅のこと。(訳者注)



戦国諸侯の形勢図(紀元前 350 年)

万の人馬を動員し、戦争の規模はいまだかつてない程に大きくなりました。

荘子は「人間世篇」で戦争による殺戮の様子を描写しています。荘子は顔回の口を借りて、次のような歴史的事実を語っています。荘子の時代、衛国のような諸侯国が数多くありました。君主は独裁的で、自国を統治するのもいいかげん、民衆の命を草のように見なし人民を簡単に死なせたので、戦死者の亡骸が野に満ちています。また「支離疏」という男の姿を作り出し、民衆たちの当時の兵役免除の様子について語っています。支離疏は、とても醜く、あごがへそにめり込み、両肩は頭より上に突っ張り、五臓が背中にあつまり、二本の足は脇の下から分かれ



ています。こんな不自由な体だったので、徴兵の時にも、徴集された男たちの間を大手を振って歩いている、とあります。

戦争と殺戮は莊子の生活背景を構成しただけでなく、莊子がこの世を無常で残酷な暴力世界と見なすようになった原因でもあり、あわせて莊子に弱肉強食のジャングル法則世界から決別するよう促す契機ともなりました。

莊子の時代は、士が最も活躍した社会でした。

戦国時代は、遊士の風潮が流行しました。遊士は内では国家を治め、外では遊説をとおして各国の利益関係のバランスを保つ役割を果たしたので、下は地方の豪族貴族から、上は諸侯の王公にいたるまで、さかんに士を招き入れました。王公貴族たちは、一人の人間の才能によって天下を手に入れることができること、有能な才能によって自国を強国にするという夢が実現し、天下の財をあつめ万里の地を併呑するための助けとなるということをよく知っていました。たとえば、燕国は七雄のなかでも比較的弱小国家でしたが、昭王が即位すると、富国化を図り、「卑身をも幣^{へい}を厚くし以て賢者を招い」たため、多くの人材が燕国のもとに赴きました。莊秦は「周から燕に帰り」、鄒衍は「齊^{すうえん}から燕に帰り」、樂毅は「趙から燕に帰り」、屈景は「楚から燕に帰」ってきました。そのため、燕国は日ましに強くなっていきました。

遊士の側からいうと、こうした風潮は千載一遇のチャンスであり、自分の夢を大きく実現できる時代でした。仕える主人にとって有益でありさえすれば、一芸に秀でているだけでもよく、たとえば鷄鳴狗盗^{けいめいくとう}のような輩^{やから}でさえ孟嘗君^{もうしようくん}の配下に取り立てられました。こうした遊士は主人のために策略を練ったり、遊説に奔走したり、実務を行ったりして、